

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【浦和区】

〈開催概要〉

日 時：令和4年10月4日（火）18：30～20：00

会 場：浦和コミュニティセンター（浦和駅東口・コムナーレ10階）

参加者： 7名（傍聴者0名）

市出席者：市長、デジタル改革推進部

事務局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：デジタルでシンカするさいたま市

～デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進～

参加者との意見交換

●参加者

〈発言1〉

私は大学3年生なのですが、入学当時には新型コロナウイルスがはやっていたので、1、2年時の授業はほとんどがオンライン授業かオンデマンド授業でした。最初こそ急なオンライン授業に戸惑いはありましたが、自分の好きな場所や好きな時間で受けられる自由な点や、通学などの移動時間がかからない点、受けた授業をオンデマンドでもう一度受け直せる点など、対面の授業に比べて多くの利点があると感じました。

しかし3年生になり、新型コロナウイルスが落ち着き始めたので、私の通う大学の授業は、原則全てが対面で行うこととなりました。対面の授業はオンラインで行う授業と内容がほとんど同じであるにもかかわらず、受けるまでに多くの手間がかかってしまいます。さらに、オンラインと違い後から授業を見直すといったこともできないので、勉強するのにとても不便さを感じています。

以上のことから、コロナ禍で始まったオンライン授業を、落ち着いたからとやめて元の対面に戻すのではなく、せっかく授業のデジタル化が進んだので、このままオンライン授業と対面授業を混ぜるハイブリッド授業を進めるべきだと考えるのですが、市長はどうお考えになりますか。

〈発言2〉

グリーントランスフォーメーションという言葉が最近よく聞きますが、さいたま市でも脱炭素社会を目指すことで、脱炭素先行地域に選定されたと思います。これには500億円ぐらいかかると聞いていますが、これを聞いたからといって、我々にはピンとこないので、わかりやすく伝えてほしいです。

それから、テーマに関連して言いますと、先日の選挙の立ち会いに行ったところ、割り印を大量に押す必要があり、手間がかかりました。この制度は何とかならないのかなと思います。

また、区役所で証明書を取得すると、1通300円ですが、マイナンバーカードを利用してコンビニで取得すると、1通200円と少し安くなります。この差はどのような理由からなのでしょう。

D Xを推進するには、システムをよりよくすること、押印をなくすこと、マイナンバーカードの活用、キャッシュレス決済の推進が必要となってくると思います。

＜発言3＞

私には、特別支援学校に通う小学生の息子がいます。D Xの推進に当たり、デジタル化していただきたいことが2点あります。

まず1つ目が、保険年金課に提出している、市外でかかった医療費の払い戻しをする医療費支給申請書です。息子は、都内の複数の病院にかかっているのですが、この書類に、毎回同じ内容を手書きで記入して、日付だけ変えて区役所に持参しています。

2つ目は、支援課に提出する障害者への支給に関する各種申請書です。例えば、足につける装具を1件申請するのに4枚の申請書が必要となります。記入項目が多く、家族全員分のマイナンバーを記入する欄に至っては重複しています。装具以外にも、座位保持椅子、バギー、カーシートなど、成長に伴う修理や作り直しのたびに、こういった膨大な書類が必要です。この備品以外にも、おむつの支給、ガソリンの補助、ETC、訪問医療、訪問入浴、全て申請するたびに手書きで役所に持参することが、障害者の家族の大きな負担になっています。既に役所の方が把握しているであろう内容を、毎回手書きで記入することがとても無駄に感じています。

これらをデジタル化することで、書類を受け取る役所の負担も減らせると思いますので、是非御検討をよろしくお願いします。

＜発言4＞

さいたまデジタル八策というものを今回初めて知りましたし、自分の日常の中で市役所に行くのは、固定資産税や住民税などの支払い関係で行くことばかりで、正直なところあまり用事がありません。

先ほどの方も福祉の書類を簡素化してほしいということでしたが、例えば住民票や戸籍謄本を取るときに、スマートフォン1つでポチっとできたらどれだけ楽だろうかと思います。支払いについても、お買物に行く途中に、「じゃ市役所に寄って払おう」ではなく、気軽にコンビニなどで支払えるような仕組みにしてほしいと思います。また、これから年を取っていくと、介護や医療など様々なことがあると思うので、そのあたりを特に重点的に対応していただきたいです。

私はアートが好きなのですが、先日世田谷区で、ムーンアートナイト下北沢という、商店街ができたことによるアートイベントと、N F T付きのデジタル作品を使ったスタンプラリーが行われていたので参加してきました。スタンプラリーは、商店街の中を歩いてQ Rコードを読み取ることで、無料配布されているN F T付きの作品を自分のスマートフォンにダウンロードできるもので、最後の方はむきになってQ Rコードを探しました。このように特別なものがもらえたり、歩いたのは商店街の中なので、まちの一部ではありますが、まちを歩いた気分になり、こういう経験も面白いなと思いました。

さいたま市はよく「何も無い」と表現されると思うのですが、何も無いことについて考えてみると、生活都市だから何も無い、むしろ、生活するに当たって十分な施設があるから何も無いと感じているだけで、実は十分にあるのではないかと思います。観光資源は確かに少ないかもしれませんが、ディズニーランドがあるとか、そういう取って置いたようなものではなくて、日常の中にもっと見えてくるものがあるのではないかと思います。例えば電柱にQ Rコードがついていて、それを読み取ると、ここは昔こうでしたとか、この近くにある彫刻のアート作品は誰が作りましたとか、観光資源のようなものを浮かび上がらせるような仕組みをつくってほしいです。

デジタル化の推進といいますが、結局最後はアナログの力がないと、デジタルを活用することはできないと思います。「仕組みをつくったから私たちは取り組んでいます」ではなく、「仕組みを作りました、では具体的にどのように活用していきますか」だと思いま

す。さいたま市の取組について調べていたら、地域ICTリーダの養成講座の受講希望者の募集が始まっているのですが、そういう人たちを具体的にどう配置をして、どう活用するかが重要だと思います。おそらくこういう地域で学んだ人だと、地域にこういった人がいますよというお知らせしかしていなかったりして、誰が地域ICTリーダなのか知らないということが多いと思うので、民間企業と連携をして、官と民がうまくつながるような仕組みができないかなと思います。

先ほどアートに関連したお話をしましたが、私はさいたま国際芸術祭のサポーターを務めています。まだ具体的な内容はサポーターたちには知らされていませんが、令和5年に開催予定ということで今動いているようで、アートとデジタルをうまく使って、楽しいことからデジタルに慣れていくようにするとよいと思いました。預金口座を登録すると、マイナポイントがもらえるような取組をやっていますが、そういうプライベートの核心的な部分は、まだやめておいてほしいなと思います。

また、市役所内でデジタル化についての教育をどう進めていくかという課題があると思います。以前窓口でアートの件で問合せをしたときに、「それって何ですか」と答えた職員がいました。こういうことがあると、市役所への信頼感は少なくなりますので、施策を、縦のつながりだけでなくどのように横につなげていくか、という想像力のあるさいたま市職員となるように、教育を充実させていただきたいです。

<発言5>

さいたまデジタル八策について、おおむねこの内容について賛成です。デジタル化を進めれば、利便性が高まることは事実ですし、いろいろな届出や手間が省けるのはとてもよいことだと思います。

しかし、1つ疑問があります。全ての手続きをデジタル化、オンライン化するということが、現実的に不可能なこともあると思います。デジタルだけではなく、その中にはアナログなことが必要だったり、人の手でやらないとできないことも存在すると思います。既存の環境をそのまま残し、人の手で行うものと、デジタル化するものをうまく両立することが重要だと思います。

次に、デジタルデバインドについてお話ししたいと思います。大学の入試科目に「情報」が追加されるということで、小学校でもタブレットを使った学習を進めていると思うのですが、小学生の中にも、デジタルやITに関して詳しくないし、学ぶ意欲のない人もいます。小学生のころからそういった情報の授業や、パソコンを積極的に使った授業を受けることはもちろん大事ですが、小学生の頃につまらないという印象を持ってしまうと、中学生、高校生になって本格的に学び、大学で使うとなっても、興味が沸かなくなってしまうと思うので、小学生のころからガツガツと学ぶのではなくて、中学校や高校から選択制にして、学びたい人だけが学べる形にするとよいと思います。情報について学ばなかった人は、デジタルに関する知識がないまま育ってしまうかもしれないのですが、それについては、すべてをデジタル化するのではなく、人の手で対応することでカバーできると思いますので、早いうちからiPadやパソコンを使った学習を推進して、全ての人に強要するのではなく、学びたい人だけが学ぶ形がよいのではないのでしょうか。

<発言6>

学生目線で思っていることと、普段ニュースを見て感じたこととお話ししたいと思います。

まず学生目線でのお話ですが、オンライン授業について、例えば私の通っている学校だと、Zoomで授業の配信はしているのですが、出席を取らないから出席の扱いになっているのかどうか分からないなど、不明確なことがとにかく多いです。学校の先生も分からないからどうしようもない、という部分もすごく多いです。まだ導入して間もないからしような部分もあると思うのですが、そういう部分を透明化してもらいたいです。

そのことに関連して、例えば自分が持っているiPadも、自分で購入する形にはなるのですが、学校で一律購入する形を取っていて、使うアプリも決められています。先生たちは市の教育委員会からこういうアプリを使ってくれと言われていたらしく、自分たちがこうしてほしいとか、「このアプリはここがあまりよくないから、こっちのアプリにしてほしいです」と言っても、先生たちに決める裁量がなく、「どうしてもわからないからごめんね」で終わってしまうことが多いです。例えば、連絡用のアプリ一つ取っても、世間ではAというアプリの方が便利ではやっているが、ほかの市と差別化したいからという、学生にとっては関係のない理由でBというアプリが導入されていて、先生たちもBの方は使いづらいからAの方にしたいと思っているのに、上の方で意見が通らないなど、意思疎通が難しい部分があるので、もう少し学生が直接意見を言える場があるとよいなと思います。

また、私が通っている高校の文化祭は、チケット制で一般公開をしたのですが、その際にオンラインを活用する選択肢がありませんでした。というのも、開催を企画する側は、生徒のほかには年齢層が上の先生が多く、先生たちはデジタルが使いえなかったり、個人情報に心配で抵抗があったり、生徒もデジタルに関するノウハウを持っていないので、導入したくてもできませんでした。例えば、市が持っている、「イベントを開催するときにはこういうシステムを使って、こうすると上手くいく」というようなノウハウを教えてもらうことができるのであれば、学生でも活かすことができる部分はあると思います。

それから、さいたまデジタル八策のような市が行っている施策について、高校生のほとんどは知らないと思うのですが、それは広報の仕方にも原因があると思っています。例えば、今朝Jアラートが鳴っていましたが、登校時間に重なってしまって、知らなかった人もいました。ニュースで取り上げられたからといって必ずしも知っているわけではないし、携帯電話を持っていても知らないこともあるので、世代ごとに工夫した広報の仕方を考える必要があると思いました。

また、さいたまデジタル八策を進めるに当たって、データの扱いをどうしているのか聞いてみたいです。最近ほかの自治体で、USBを持ち出して全住民分の個人情報が漏れてしまったことがありました。すべての手続きをオンライン化したはいいが、全てどこかの組織に筒抜けになってしまっていることもあり得ると思うので、そういった対策はどうなっているのか気になります。

また、私が聞いた話では、ゲーム会社でシステムの更新をしたくて、システムのサーバーの更新をしたときに、システムの不具合で全てのデータが消えてしまい、さらにバックアップを取っていたものも消えてしまったことがあったようです。住民のデータがサーバーに入っているとして、データだから消えることもあると思います。いつかそうなったときにどういう対応をするのかが、考えられているとよいと思います。

最後に、皆さんの発言にもあったように、アナログも大事だと思うところがあります。先日KDDIの通信障害がありましたが、これも一種の災害だと思っていて、電波が通じないということは、アプリで確認しようにも確認できないということなので、そういう時にどう対処したらよいのかを教えてくださいたいです。例えば、パスワードを全部アプリなどに覚えさせているから、いざ自分で打ち込んだときにわからないとか、学生の中には家の住所や電話番号がわからない人も一定数いて、自分たちがデジタルに寄りかかり過ぎていることから起こる問題も、後々出てくると思うので、その対策も教えてくださいたいです。

<発言7>

私は、さいたま市が運営している体育館で、受付などの仕事をしています。そこで、不便に感じたり、おかしいなと思うことがありましたので、そのことについてお話しします。

まず、テーマ説明資料の中を見ると、デジタル再設計には金額的にどのぐらいかかるとか、システムのどのぐらい違うか、ということについて全く考えていないように思いま

す。さいたま市役所が移転するというお話を聞いていますが、移転するに当たって、システムの構成にも余裕を持って設計しなければならないと思います。

現在体育館では、夕方に翌日分の請求書などを印刷しているのですが、その作業中に画面が固まってしまうことが度々あります。そうならないようにするために、回線の増設や、システムの再構成などが必要だと思います。

それと、20時以降は市役所のコンピューターが止まってしまうので、20時には作業を終了させないといけないのですが、市役所では時間を延長することは考えていないのでしょうか。20時には券売機も端末も止まってしまうので、24時間稼働させることを希望します。

また、テニスコートの予約状況がホームページから確認でき、キャンセルがあると空白になるのですが、空白になったところに予約を入れるアプリケーションを作って予約をしている人と思われる人がいて、不公平なので改善してほしいです。

最後に、先日の選挙の際に、市役所の人か選挙管理委員会の人かわかりませんが、USBメモリを持ってきて、これを使いたいと言ってくる人がいました。危険ですので、教育をしっかりとさせていただきたいと思います。

◆市長

>> 発言1

大学もそうだったと思いますが、私たち自治体も、特に市立の小・中学校については、さいたま市GIGAスクール構想を3年くらいかけて徐々にスタートする予定でしたが、コロナ禍となり、その年に一挙にスタートしなければならなくなりました。回線の容量が十分でないといった様々な不具合が起きましたが、少しずつ改善し、オンラインのよさを感じられるようになってきたところです。今後、ウィズコロナ、アフターコロナという状況の中では、コロナ禍における変更を、継続していくことも必要だと思います。また、コロナ禍だったから特別だったのではなく、特にデジタル化については、その時計の針がかなり早く回ったという認識をしていますので、元に戻す部分と、継続していく部分の2つの面があったほうがよいと思っています。

>> 発言2

印鑑については、ゼロではありませんが、法律や条例で規定されているもの以外は原則廃止しようということで進めています。印鑑に代わる形を市でも考えながら、印鑑をなくすためにも、マイナンバーカードの普及などを進めていきたいと思っています。

また、手数料が300円のところと200円のところと、差があるというお話がありました。区役所に証明書等を取りにきていただいてもよいのですが、マイナンバーカードを持っていれば、印鑑証明や納税証明といった証明書はコンビニエンスストアでも取得できるようになっています。ですから、区役所の窓口だと300円、コンビニエンスストアだと200円として、少しでもコンビニエンスストアに誘導したいこともあって安くしています。マイナンバーカードを持っていれば、さらに少し安くするようなことも含めて、今検討しています。デジタル機器を使って手続きができる方については、わざわざ役所に来なくても、自宅など、どこでも手続きができるようにしていき、デジタル機器が苦手な方については、区役所に来ていただいて、丁寧に手続きをしていただくのが、方向性の一つだと思っています。

>> 発言3

私たちがやらなければならないのは、一つはオンラインで手続きができるようにすること、また、お話があったように、いろいろな書類を添付しなければならない点の改善です。これも法律や条例で決まっているものがあり、現状では書類の添付などが続いているものもありますが、できるだけ手続きを簡素化し、何回も同じことを書くことを解消する方法

を検討していきたいと思います。マイナンバーカードを活用するなど、デジタル化の中で改善していく必要があることだと思います。

行政の手続きについては、簡素化していくというのがデジタル化の基本だと思いますので、特にいろいろな手続きをしなければならぬ方の負担を軽減させる取組を進めていきたいと思っています。

>> 発言 4

書類の取得や手続きのために、わざわざ役所に行かなくてもよい形にしてほしいというお話と、ムーンアートナイト下北沢の事例を挙げながら、デジタルを使って、どう社会が豊かになるのかについてお話いただきました。

さいたま市も先日、日本旅行という企業と協定を結び、メタバースを使った行政手続きや広報についての取組を始めました。これから、デジタルというツールを使ってできることは、たくさん増えていくのではないかと考えています。

ただ、デジタル化が目的なのではなくて、デジタルはあくまでもツールであって、私たちとしては、地域や市民の皆さんが抱えている課題を、デジタルというツールを使ってどのように解決をしていくのか、よりよいものにしていくのが目的です。とにかく何でもデジタルにすればよいと考えているわけではありません。

ですが、デジタルを使うことで、今までのやり方よりもっと楽しくなったり、もっとやりやすくなったり、もっと合理的にできるようになったりすることは、間違いなくあると思いますので、デジタルを活用してアートのイベントができたり、商店街の活性化につながるようなこともやりやすくなってくると考えています。観光でいえば、メタバースで昔の時代に戻って楽しめるような空間をつくっていくこともできるのかもしれない。いろいろなやり方があるのだと思いますが、みんなが楽しく、豊かになるようなことに取り組んでいきたいと思っています。

それから、アナログの力というお話がありました。教育の話ともリンクすると思うのですが、全てデジタル化をすることがよいとは思っておりません。さいたま市GIGAスクール構想では、一人一台タブレット端末を配布して、勉強するためのツールとして使っています。これにはメリットもあるのですが、もう一方で、五感で感じてもらった方がよいこと、いろいろな体験をしたほうがよいこともあります。例えば、昆虫を見たりするのも、タブレットを見ればすぐに画像や映像が出てきますが、実際に田んぼや森の中に行くと虫を見た方が、五感に訴える力も大きいですし、実際に体験したほうがよいという教育も間違いなくあります。デジタルとアナログについて、どのようにバランスよく進めていくかが重要で、片方だけでよい時代ではもうありません。デジタルは、いろいろな知識や情報を一瞬にして集めることもでき、知ることもできますので、とても素晴らしいツールです。もう一方で、例えば匂いまではまだタブレットから出てきませんから、五感全てを満たせるものではないので、実際に体験、経験をすることも必要だと思います。そこはバランスよくしっかりと進めていこうと、教育委員会ともお話しているところです。

それから、地域ICTリーダのお話も出ました。デジタルが苦手な皆さんたちをどのようにサポートしていくか、という課題がありますが、身近にサポートしてくれる方がいて、かつ継続的なサポートがないとなかなか難しいので、その解決のために地域ICTリーダという方が130名ほどいます。私や私より上の世代の人は、メールを送るのもときどきしながら、ちゃんと送りたいところに行くだろうかと考えてしまっていますが、今日来て下さっている高校生や大学生の皆さんのような、いわゆるデジタルネイティブと言われるような方々は、そういったツールを当たり前のように使っています。地域ICTリーダは比較的年齢層の高い方が多いのですが、そういった若い皆さんのお力も借りながら、いろいろな人が協力をし合いながら進めていかないと、デジタル化のよさを共有するのは難しいのだと感じています。地域ICTリーダなど、様々な仕組みをつくって、世代を超えて教え合い、普及に御協力をいただくことがすごく重要だと思っています。

それから、官民がつながるような仕掛けをもっとしたほうがよいというお話もいただきました。新型コロナウイルスワクチンの接種予約の際、予約方法としてコールセンターとインターネットの2種類を用意したのですが、一時期は両方ともパンクしてしまい、増強しながら進めていきました。ですが、それでも予約ができない方もいましたので、区役所や図書館、公民館だけでなく、民間の商業施設にも協力をお願いして、なんとか体制をつくって乗り越えてきました。今、マイナンバーカードの申請業務についても、民間企業に御協力いただいているところですが、これからは、行政だけで進めることはなかなか難しくなってくると思っています。特にデジタル化については、民間の皆さんとうまく力を合わせながら取り組んでいきたいと思っています。

また、市役所内の教育についてですが、市役所の職員にも、デジタルが苦手な方もいますので、情報をしっかりと共有しながら進めていきたいと思っています。それぞれ専門の所管がありますので、全ての職員が全てわかるということは、なかなか難しいところもありますが、流れについてはみんなが理解していることが必要だと思っていますので、こちらも併せて取り組んでいきたいと思っています。

>> 発言5

オンライン化することについては、利便性も高くなるのでよいのではないかと、ただ、デジタルとアナログの両方とも、それぞれのよさがあるので、しっかりバランスを取っていく必要があるのではないかと御意見をいただきました。アナログでないといけないことは当然あります。ただもう一方で、デジタル化をすれば効率的になることもまだまだたくさんあります。これまで市役所は、大変アナログ的にやってきていますので、そういった部分を引っ張り出して、デジタル化をして効率化していく必要があると思っています。また、アナログの重要性も当然ありますから、それを生かしながら進めていきたいと思っています。

私たちも、デジタル化を進めることで、「パソコンやスマートフォンを通じてでなければ全ての手続きができません」、ということにするつもりは全くありません。デジタル機器を使うことのできない方は、区役所に来ていただいて従来通りの方法で手続きができます。また、窓口で職員が申請内容を聞き取りながら入力していくような、書かない窓口のようなことも検討しています。

また、全員が小学生からデジタルについて学ぶことには賛成ではないというお話もいただきました。もちろんそういう意見もあると思います。私も、当初はどちらかということ、あまり小さなときからやり過ぎないほうがよいのではないかと考えていたが、時代が大分変わってきて、学校に入る前からもうパソコンを使い、YouTubeを見て、ゲームをして、という世代になってきていますから、それとどううまく付き合っていくのかという視点がすごく重要だと思いました。全てをデジタル化するわけではないので、デジタル化でやることと、アナログ的にきっちり体験をし、感性を磨いていくことの両方のよさを引き出しながら教育をしていくべきだと思っています。

これからの時代は、ちょうど皆さんの世代からスタートしているのだと思いますが、単に数学的に何掛ける何は、という世界ではなくて、課題を自ら見つけて、そしてそれをどう解決するのかを全て皆さん自身で探求して調べていく、アクティブラーニングという時代になってくるのだと思います。そのためには、デジタルの知識を身に付け、iPadやパソコン、スマートフォンを駆使して様々な情報を操れることもすごく重要なことだとも思います。このデジタルを活用した教育については、まだまだ緒に就いたばかりなので、改善しなければならないところがたくさんあり、これからの大きな課題だと思っています。

>> 発言6

学生目線というところで、運用に当たって、日常生活の中ではこんなところがおかしい、もう少しこういうことを変えられないか、という思いがたくさんあって、それを幾つか御

紹介いただきました。

いろいろな課題が出てきていると思います。それをこれからどのように解決しながら、どのようにデジタルを活用した教育を確立していくかについては、私たちの方からいろいろなモデルを提示し、それをどのように変更・運用していくかについては各現場で考えながら取り組んでいくのが望ましいのだろうと思っています。

それから、広報の仕方が重要なのではないかというお話もいただきました。今、情報ごとにかくたくさんあり、恐らく iPad を見てもスマートフォンを見ても、ありとあらゆる情報が本当にすぐ手に入ります。ですが、必ずしも本当に必要な情報が手に入っていないケースがあります。

私たちも行政として、特に伝えたい人たちに、必ずしも情報が伝わっていない現実があります。その中で、SNS を活用したり、LINE を活用したり、いろいろな情報ツールを活用して、情報を本当に伝えたい人に、どうやったらしっかりと伝えられるかを、検討して取り組み始めているところです。さいたま市からの情報はたくさんありますから、全ての情報を全市民にお知らせするのは難しいと思います。ただ、高校生がどうしても必要だと思われる情報を、間違いなく高校生の皆さんに伝えられる、子育て世代には子育てに関連する情報を伝えられる状況を作りたいと思っています。

それから、データの扱い方については、USB で持ち出すのは、原則禁止となっています。基本的にはサーバーのバックアップをしたり、クラウドを活用したり、いろいろな方法でセキュリティ対策を進めています。セキュリティなどについて細かく知りたければ、後ほど担当が御説明させていただきます。

先日新型コロナウイルスに感染しまして、症状があまり重くはなかったので、5日目ぐらいからテレワークを行いました。シン・テレワークシステムという、行政の情報にしっかりとセキュリティを確保して入っていて、メールや決裁を確認できるシステムを活用して、業務を行うことができました。高度なセキュリティの下で、このようなシステムも出来上がりつつあります。もちろん、これが永遠に大丈夫ということはなく、常にセキュリティのブラッシュアップをしていかなければなりません。安全なセキュリティを確立していくことは、これからのデジタル社会に不可欠な要素だと思っています。

>> 発言 7

デジタル化をする上において、非常にお金がかかるのも事実です。その中で、国全体として自治体の情報の共有化・標準化というものに取り組んでいます。今は自治体ごとのシステムとなっているので、ちょっとした改修をするだけでものすごい大きなお金がかかるのですが、それを全国で標準化することによって、コストを下げたいというのが一つの大きな目標になっています。

これからデジタル化が進んでいく中で、改修したりブラッシュアップをしたりというのは必要となりますが、常にバージョンアップをしていくためにも、低コストで速やかにできることが重要だと思っていますので、そういったことも含めて、国の標準化とも合わせて進めていきたいと思っています。

それから、幾つか具体的にいただいたお話については、これからまた課題として検討していきたいと思っています。

システムは今20時で終わっているのですか。

◇市職員

>> 発言 7

それぞれのシステムにもよりますが、夜間のバッチ処理など、システムによってはやらなければならない処理があり、20時までとなっているものもあります。

◆市長

>> 発言 7

状況によって違うようですが、残業もあまりしないようにしようということもあって、なるべく夜遅くまでやらないようにしているところはあるかもしれません。

ただ、公共施設予約システムにおける予約などの外部の手続きについては、5時から24時までできることになっていますので、内部の仕事については御理解をいただければと思います。

●参加者

< 発言 8 >

タウンミーティングに参加するにあたり、DXについて市役所の方何人かに聞いてみたのですが、先ほどお話があったように、なかなかいい答えがありませんでした。

それから、自治会の加入についてです。自治会の電子化モデル事業をやることによって、自治会の会員を増やそうということなのですが、なかなか会員になってくれる人がいません。市に市税を払っているから、ゴミはどこに捨ててもよいのではないかという若い人が多いです。加入しても電話番号は個人情報だから教えられない人もいて、問題がたくさんあります。

◆市長

>> 発言 8

自治会の問題も含めて、これからデジタル化をすることでいろいろな業務の軽減化を図っていきたいと思っています。自治会やPTAなど、いろいろ負担が多いという御意見をいただくこともありますので、できるだけデジタル化をすることで業務の負担軽減を図れるように支援をしていきたいと思っています。一方で、対面で地域の交流を深めていただくなど、デジタル化だけではできないことがたくさんありますので、自治会の必要性や重要性を感じていただけるように、自治会の皆さんと協力しながら取り組んでいきたいと思っています。

デジタル化が目標なのではなく、デジタル化は、市民の皆さんがより便利で、豊かに暮らせるための一つのツールだと思っています。また、引き続きアナログでやらなければならないことも、間違いなくあると思っています。例えば、朝の通学のときに多くの地域の皆さんや保護者の皆さんが、子どもたちの安全を守るために、交差点で導いてくれていますが、こういった活動は、デジタルだけではできません。そういった皆さんのお力があって、安全が守られているのだと思います。

デジタル化すべきことと、デジタルではできないことの両方を大切に、うまくバランスを取りながら、地域の課題を解決していきたいと思っていますので、引き続き皆さんから御提案をいただければありがたいです。

本日は、皆さんから大変貴重な御意見をたくさんいただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。平日の夕方ということで、皆さん大変お疲れのことと思いますが、御参加いただいたことに改めて御礼申し上げて、最後の私の御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

■ 補足説明

「さいたま市が脱炭素先行地域に選定されたこと」について

令和3年6月に開催された「国・地方脱炭素実現会議」において、「地域脱炭素ロードマップ」が公表され、その中で、2030年度までに100か所の「脱炭素先行地域」をつくることが明記されま

した。この脱炭素先行地域については、複数年度にわたって継続的に資金支援を受けられることとされており、令和4年度から、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金が創設されました。脱炭素先行地域は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、民生部門の電力消費に伴う二酸化炭素排出の実質ゼロを2030年までに実現し、全国に広げる「実行の脱炭素ドミノ」のモデルとなる地域です。

さいたま市と埼玉大学、芝浦工業大学、東京電力パワーグリッド株式会社埼玉総支社の4者は、共同で提案を行い、全国で26カ所となる「脱炭素先行地域」の一つとして、初めて選定されました。提案内容は、2030年までに目指す地域脱炭素の姿として、「さいたま発の公民学によるグリーン共創モデル」をコンセプトに、全国の自治体で実現可能な汎用性の高い「地域循環共生型の都市エネルギーモデル」と公・民・学それぞれが主体となって取り組む「先進的かつサステナブルなグリーン成長モデル」の創出を目指すものであり、総事業費は約70億、そのうち国の交付金約48億の活用を想定しています。対象とする地域は、公共施設とその一部として実施する中央区再編エリア、埼玉大学キャンパス、芝浦工業大学大宮キャンパスの2つの大学キャンパス、美園地区周辺の「地域共創エリア」の5つです。

主な取組としては、以下の4点を考えています。

- ①ごみ発電を活用し公共施設への自己託送、公共施設や商業施設の屋根や駐車場、大学敷地内に太陽光発電設備等設置するなど再生可能エネルギーの最大限導入
- ②5つの脱炭素先行エリア全体でエネルギーマネジメントを実施し、自家消費の最大化を推進
- ③調整池へのフロート型太陽光発電設備の設置など、市内外からのオフサイトPPAを活用
- ④デジタル技術を活用し、「市内の環境価値」の最大限活用

今回提案した「公民学によるグリーン共創モデル」は、全国の自治体が取組み、自治体主導のモデルであり、全国へ横展開できる、「実行の脱炭素ドミノ」の先進モデルになるものと考えています。

(環境局 環境共生部 環境創造政策課)

「医療費支給申請書のデジタル化」について

医療費の払い戻しをする医療費支給申請書については、さいたま市電子申請・届出サービスによりオンライン手続きが可能となっております。

(保健福祉局 福祉部 年金医療課)

「楽しいことからデジタルに慣れていくようにすること」について

貴重な御意見誠にありがとうございます。

デジタルに慣れていくため、身近なところ、特に好きなことに関連付けていくことも重要であると考えられます。デジタルを活用したアートを鑑賞することは、アートに関心を持っている方だけでなく、多くの方がデジタルにも興味を持っていただくきっかけとなることも考えられますので、いただいた御意見を参考に、今後、研究を行ってまいります。

(スポーツ文化局 文化部 文化政策室)

「マイナンバーカードへの口座の登録」について

マイナンバーカードを利用した公金受取口座の登録等につきましては、これまでも、国において様々な議論や検討が行われてきたものと認識しており、引き続き、国の動向等を注視してまいります。

(都市戦略本部 デジタル改革推進部)

「学校のイベントにデジタルを導入すること」について

ICT機器を用いてオンラインで配信することは、機器の操作等技術的な問題が目立つ一方、著作権や肖像権等倫理的な問題に気付きづらい傾向があります。学校での活動に対して、より効果的にICT機器を活用することができるよう、引き続き推進してまいります。

(教育委員会事務局 学校教育部 高校教育課)

「デジタルに寄りかかりすぎていることから起こる問題への対策」について

総務省が安心してインターネットを使うために発信している「国民のための情報セキュリテ

ウェブサイト (https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/)」の中で、IDやパスワードにおける設定や管理のあり方等が掲載されているので、御参照ください。
(都市戦略本部 デジタル改革推進部)

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。